

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401353		
法人名	(有)アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家		
所在地	愛知県名古屋市長区尾崎山1-1001		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を感じ、職員と利用者様が常に寄り添い家族の一員のように日々過ごして頂き、常に笑い声や笑顔が見られるよう努めている。また、多数のボランティアさんにご協力を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「その人らしさ」を大切に、利用者が洗濯や食事作り等、日常生活の中で自分ができることを見出し、生きがいにつながる様支援している。また、食事の献立は立てず、その日食べたい物を利用者の希望を聞いて作る等、家庭で過ごしているような生活感を大切にしている。地域活動にも意欲的で、緑区福祉フェアへの参加やいきいき支援センター主催の「認知症の家族サロン」で講義を行う等グループホームの意義を伝える役割を果たしている。今年度は夏祭りに地域住民の参加があり、更なる親交を深める事ができた。開設7年目で、地域、市町村、家族との協働関係が安定した事で、利用者の安楽な生活へと還元できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や月一度の職員会議で事業所理念を唱和し、職員一人一人がその理念をもとに介護サービスを実践するよう努めている。	職員は申し送りや職員会議の場で理念について振り返り、ホーム独自の理念の言葉にある『その人らしさを大切に』を柱に、利用者個々の出来ることを見出し、寄り添う支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や、夏祭りに地域の方、ご家族様、民生委員等に来設して頂き、地域との交流を深めている。	毎日の散歩が日課となり、住民とは顔見知りの関係を継続している。ホーム目の前の公園は住民の憩いの場となっており、日常会話を交わす等地域住民の一員として交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも訪問して頂き気軽に見学や相談等して頂けるような雰囲気作りを行っている。また、認知症家族サロンに講師として参加する等認知症に対する理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、薬剤師、消防職員の方を招いて各分野のお話をして頂くなどサービス向上に活かしている。	推進会議では、外部の講師を招き「認知症や薬について」や「防災について」等、身近に関心の持てる会議を実施している。利用者や家族、住民の意見交換の場となり、協働関係を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護課の担当者との連携を密に行ったり、認知症家族サロン、緑区介護フェアに積極的に参加し、協力体関係を築くよう努めている。	区の生活保護課の担当者と日常的に相談できる密接な関係を継続している他、いきいき支援センターが主催する講義の講師として参加し、地域に根差した活動を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアル整備、社内研修での勉強会等おこなっており、職員はよく理解している。玄関の施錠はしているが、あくまで防犯上、利用者様を守るためであり、外出希望時には夜間帯等を除いては職員が付き添うなど支援をおこなっている。	月一回の職員会議では、身体拘束について議題に出したり、テキストを使い勉強し職員間の認識を深めている。日常の関わりの中でも、スピーチロック等の行為があればその都度注意を促し、申し送りで議題に出す等改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、外部研修、マニュアルの常時観覧等職員一人一人の意識付けをし日々、観察を怠らず身体拘束をしないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用しており連絡を密にとっている。それにより職員一人一人が制度の把握をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の段階で、疑問点や不安な事を十分に話し合い契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば職員はもちろん、運営推進会議等を通し、外部にも表し改善策を話し合うと共に、運営に反映させている。	月一回、利用料の請求書を家族へ手渡しする事で話す機会を持ち、家族の要望を聞く様努めている。利用者の外出の要望について、家族と話し合い実施に向けて支援し、協働関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、月に一度の職員会議だけではなく常に職員の意見や提案を取り入れる環境をもっている。	館長は常に職員の意見に耳を傾け、信頼関係を築いている。職員の報告より、義歯や補聴器の調整等利用者の些細な変化にも即座に対応し、サービスの改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や地域責任者を通し職員一人一人の実態を把握しやりがいをもって働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は月に一度実施される社内研修を受講している他、随時各種研修を行っており外部研修も積極的に活用している等、職員の技術向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での短期交換留学制度や、年末に全職員が集まり開催される忘年祭等、ネットワークやサービスの質を向上させるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの分析を行い、本人が困っていること、不安な事の原因を追究し対応できるよう努めている。要望に関しては、うまく表現できない利用者様の代弁者となれるよう心がけ安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にお手紙をお出ししたり、お話に十分耳を傾けたりして相談しやすい雰囲気作りを心掛け不安をいち早く取り除きいつでも要望にお応えできるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や、関係者と連絡を密にし情報収集し不安・要望・疑問等を把握し初期の段階で信頼関係が築けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今までの経験、知識等を尊重し利用者様のできる範囲で職員と共に食事の支度や洗濯物畳み等をして頂き生活の中で馴染んできたこと、得意なことを活かしながら共に暮らし寄り添う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一度はご家族様に来て頂き、近況報告をすると共に健康状態、生活の様子、思いを把握して頂き、特に精神面での支えになるようご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご家族様等に協力して頂き、面会、外出支援をお願いしている。職員が支援できることはできる限り協力を行っている。	自宅への帰省や墓参り、孫の結婚式の参加等、家族の協力を得て外出を実現している。知人が訪問に来たり、家族へ電話をかけたりと、馴染みの関係が継続できる様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で利用者様同士の関係がスムーズにいく様、職員が細かい配慮をし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となっても、ご本人やご家族様の不安がないよう他機関と連携をとりながら必要時には相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、ケース会議を行い、利用者様、ご家族様の意向や日常生活の中で情報を集め、ご本人の希望に沿えるよう支援している。	家族からの情報や意向も踏まえ利用者の日頃の言葉やつぶやきの中から気づきがあり、希望する生活を支援できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの生活歴を把握し変化した事やご家族様から新しく得た情報を記録しサービスに反映するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日々の生活の中で、できる事できないことを日常的に記録し職員の中で情報を共有し可能なことはおこなっていただくようQOLの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が利用者様のアセスメントを行い、利用者様、ご家族様との話し合いの中で現状に即した介護計画を作成している。	利用者のケース会議を月に1回行い、要望やニーズを把握しケアプランを作成している。モニタリングは毎月行なっているが、介護計画は定期的のほかに、気づきや変化があったときには見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護詳細、申し送りノートにて必要な記録を記入し、全職員が観覧し、ケアプランの見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケース会議等で一人一人のモニタリングを行い、ボランティアや地域資源の活用も含めより柔軟な支援について話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア様のご協力や、施設周辺の飲食店での外食支援、買い物等利用者様の要望に応じた支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時に馴染みの医師の確認を行い、提携医療機関の説明、同意を頂いている。	協力医の往診は隔週で行なわれおり、日頃の状況は職員から詳しく伝えられている。専門医の受診の際には、紹介状を作成してもらい、家族や職員が同行し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の利用者様との関わりを通じちょっとした変化や気づきを看護師に報告し、協力医や他医療機関などへ情報提供をし適切な看護、受診を受けれるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当医、ソーシャルワーカー等関係者に情報提供を行い治療計画の把握、今後の相談を行っている。入院中も連携し退院時には看護サマリーを基に支援方法を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応は行っていないが、勉強会等を行っており、将来的には対応できるよう努めている。	入居時に終末期対応ができない事を説明している。今後は、できるだけ支援はしたいとの思いから、職員で重度化した場合や終末期について勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル等各種マニュアルを整備しており職員はAED、心肺蘇生法等を消防訓練時等にて訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上消防訓練を行っており、運営推進会議等に消防職員を招いて講習を行っている。また、自治会での利用者様の人数把握等協力体制を構築している。	防災訓練は6月、12月におこなっている。日中、夜間設定で行い、職員の防災意識を高めている。非常食としても、水・レトルト50食分が準備され、いつでも対応できるようになっている。	町内会や消防団から、地域の人への参加協力が得られるかを依頼し、協力体制が築かれることにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼、職員会議、各種マニュアル、社内研修等を通じ対応方法等などについて気づきなどを確認しあい職員の共通認識としている。	職員は利用者に対して、丁寧な声掛けとプライバシーに配慮しながら対応している。利用者の人格を尊重した言葉かけにも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が職員に対しなんでもお話しして頂けるよう、信頼関係構築に努めている。日常生活の中で自己決定できるような声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理にお誘いするのではなく個々のペースを大事にしつつ可能な限りその時の要望に添うような支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容、洋服の買い物等の要望があれば職員と買い物へでかけ選んで頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様との普段の会話から好き嫌いを把握しできる限り希望に沿えるようにしている。下ごしらえや食器拭き等を手伝ってもらっている。	利用者と職員がチラシを見たり、その日の冷蔵庫の中でできるものを提案し調理している。夕食時には調理や食器の片付けを利用者が手伝っている。また、誕生日会や外食など楽しく食事をする機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の少ない利用者様にはコーヒーやジュースなど好みのものに変えるなどしている。また、協力医への相談、受診を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医である訪問歯科での定期検診、食後の歯磨き、義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行い、個々自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンの確認をして、利用者の表情や行動から、さりげない声かけや誘導で失敗をなくし、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、食事量、水分摂取量に注意し、便秘の利用者様には散歩、運動、マッサージ、便秘薬の処方を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ユニット毎に入浴を行っているため、希望があれば毎日入浴できるよう対応している。	ユニットごとで週に3回は入浴できるように決めているが、希望があれば毎日入浴できるように対応している。原則一人ずつで入浴介助を行っており、同姓介助の希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し昼寝など居室での休息を取って頂いており、天気の良い日などは布団を干し気持ちよく休んで頂けるような環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行い、個々自立に向けた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、テーブル拭き、食器拭き、洗濯たたみ等、職員と共に行っており読書をしたい方に関しては図書館を利用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日近くの公園や川沿いなどを散歩している。また衣服の買い物、外食や喫茶店に定期的に出かけている。家族様との外出をされる利用者様もいる。	天気の良い日には、近くの公園や川沿いの散歩をしている。買物や喫茶店、外食にも希望により出掛けている。定期的に、家族と出掛ける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っているが、希望があれば職員と共に買い物に出掛けている。外出困難な場合には職員が支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度は面会をお願いしており、困難なご家族様には近況報告等お手紙を送っている。また、毎日電話をかけてくださるご家族様にはその日の出来事をお話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂く為、折り紙や写真などの飾り付けをしている。また、居室内やフロア等の温度調節に配慮している。	行事の写真や季節の飾り付けがあり、四季を感じられるようにしている。日中はソファでゆったりと過ごし、職員とも楽しい時間を過ごしている。浴室やトイレも清掃が行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの食事以外、テレビを見る方、ソファで寛がれる方、会話をされる方等ご自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好きな花、写真、ぬいぐるみ、仏壇等を配置している。乾燥する時期には濡らしたタオルを居室内にかけ、過ごしやすいよう配慮している。	ベッドと洗面台、クローゼットは備え付けられている。利用者の使い慣れたものや好みの物も置かれている。掃除や整理整頓もされ過ぎしやすいように配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態や、動作を把握し家具等の配置に気をつけている。		